

**病気がわかった時...**  
**子供たちは伝統を継承することを申し出る。**

伝承と継承  
— 正装し家族写真を撮る

**7月：体力低下により化学療法を中止**

緩和ケア、二次的心肺蘇生を行わない方針となり外来で  
症状コントロールの通院の日々

**9月：食事が低下、著しい脱水のため緊急入院**  
**症状コントロールを図り、在宅療養開始**

説明：「症状が安定したため自宅で療養しましょう」  
依頼書：奥様は自宅看取りを考えてはいるようだが、イメージが  
出来ておらず、月末の祝い事にあたりショートステイの  
調整が必要

ショートステイに行くことなく義母の97歳の祝い。  
病状に怯えながらも婿としてその役割を果たすが、  
「夜、ホテルで血を吐いた、もうおしまいだと思った」

大事な演奏会を控えている。  
弟子たちに指導をしなければ…  
けれど、  
気持ちだけではどうにもならない痛みが襲う。

「病院で何もできないといわれたのに訪問でなにができるの？」  
「病院に見捨てられたんだ」  
「芸能を生涯の仕事ときめて生きてきたが周りに迷惑がかかるなら辞めようと思う」  
「悔しい」  
「このまま死ぬのを待つばかりか…」

家という自分の慣れ親しんだ環境。  
ゆったりとした、自分に向けられた時間のなかで思いが溢れます。

コミュニケーションのCommuには、ともにという意味があり、人はそれぞれの「物語」を生きている。

対話とは、  
その「物語」を分かち合い**新たな物語を生成すること。**

人間の生命力を強めるもの  
希望・確信…励ましとともに、  
具体的な“目標”を持つと、力が引き出せる。

**納得は確信をあたえ、心の交流を生む**  
**納得すれば、人は行動を起こし、工夫をはじめ。**

家という自分自身を取りもどせる環境で、  
看護師はケアをしながら寄り添う。

自分自身を取り戻し、  
自分らしく**自分の物語**を紡いでもらえるように…

緩和ケアのこと。痛みコントロールのこの意味を  
医師や看護師から説明を聞いた。  
在宅医療が生きることに伴走してくれると納得した。

「生涯の仕事と決めていた。辞めることはない」そう決めた。

一度はもう辞めようと思った。

納得し新しい物語が紡がれ始める。  
彼自身が決め動き出されたことに家族も、周囲も寄り添う。  
「彼を舞台に上げることも、  
家庭という舞台を支えることも私の仕事です」と妻

自ら歩行練習。

大好きなエビを食べてみる。

息子さんと台所に立ち、息子がケア

食べることは生きること

食卓は賑やかに、闘病を支えるために、それがM家流

亡くなる4日前

弟子達が庭掃除をはじめると、いつの間にかそこにいた

亡くなる3日前

稽古をつけよう…初めて息子夫婦に師事をする

自ら師事することは、初めてで最期となる

11月5日

胃に物が詰まって落ちていかない、胸が焼けるようだ、と  
夜間緊急電話。背中を静かにさするうちに眠られた。

翌6日、高熱の原因精査のために、大学病院の設備が必要。  
前日大学と在宅医との連絡会があった。医師が介入すること  
で受け入れはスムーズ。戸惑う彼に家族に、医師は丁寧に説明。  
納得した彼は、悠々とトイレへ行き、自分から歩いて救急車に乗り込む。

肺転移による感染性敗血症…

以前の入院では専門科の医師によるそれぞれの治療。  
今回は複数科の医師たちが一同に会しての総合的対応。

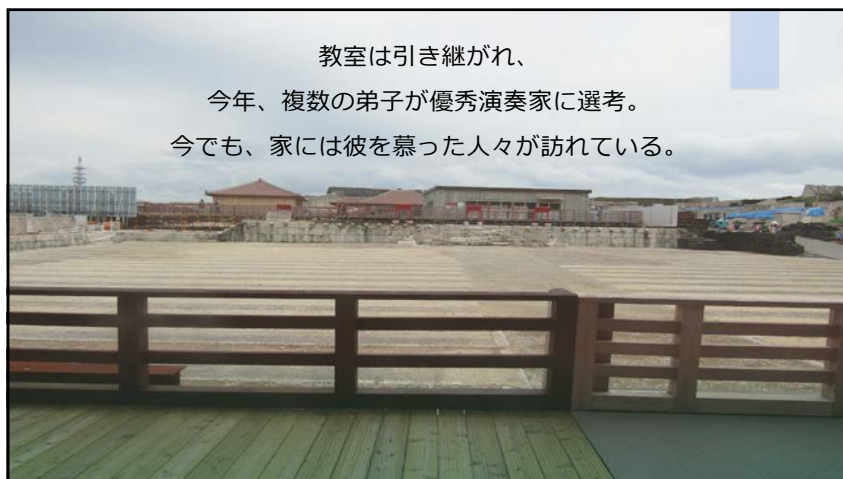
ご家族は辛い決断をするが、

【草木が枯れるように最期は静かに逝きたい】

それが**彼の意向**。

関わった全ての医師らに見送られ帰宅。





治療効果が望めず、著しい体力低下で治療方針が変わった時。  
その説明を理解し、書類にサインしても、納得出来ていない。  
それが、  
大切な時間を住み馴れた家で過ごして欲しいとの思いからでも、

希望をもって辛い治療に臨んできたからこそ、  
その失意ははかりしれない。

そんな失意の底で、大切な時間を過ごしている方が少なからずいる。  
Mさんも出会ったばかりの頃はそんな一人だった。

忙しい病院という環境の中では、そのスピードにのまれ、  
自身の状況に【納得】をするのは難しいのかもしれない。  
【納得】すれば、自身を取戻し自分らしく生きることが出来る。  
【納得】は、自ら行動を起こし工夫を始める力となる。

Mさんは、家という環境の中でケアと対話を通して  
【納得】が成されたのだと思う。

お焼香にいくと、Mさんの面差しは本当に穏やかだった。


息子様は、  
「日々命と対峙する大変なお仕事だと思いますが、父の人生の最終章に在宅医療の皆さまに出会えたことに感謝致します」と言われた。

奥様は、  
再び会えたことを喜んでくれ、沢山の写真とともに、色々な話や思いを話してくれた。  
「友人に会うと、在宅医療の話をするのよ」と言われ、  
この発表の相談にも乗ってくれた。  
深く感謝致します。

私たちは、豊かに生き切る、  
自分らしい物語を紡いでもらうために、  
**「納得」**をつなげなければならない。

先日、奥様から  
「友人が送ってくれたものですが、あの頃の私たちは、  
確かにこの言葉のような気持ちでした」と写真を送って来た。

青山俊働 著：『泥があるから花は咲く』  
明日死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学ぶ  
～お二人にぴったりの言葉と思うよ～



参考文献、  
(対話に引用)

